

# 平成25年度事業報告書・収支決算書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

一般財団法人日本色彩研究所

# I. 事業報告書

1. 以下の研究を実施している。(3. 資料(研究報告概要)参照)

- (1) 白色光源の演色性評価方法の開発
- (2) Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発
- (3) 詳細版ヒュートーンシステムによる色彩計画ツールの制作
- (4) 社会人教育「デザイン視点によるプロダクトマネジメント」の運用に関する研究
- (5) CG による製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究
- (6) 海外の色彩情報に関する調査分析
- (7) ファッションの動向に関する調査

2. 本年度は以下の事業を実施した。

(1) 産業界、教育界との協力

官公庁、教育界、産業界からの受託研究業務として、色彩デザイン、景観色彩計画、色彩調査、色彩の産業応用及び技術指導・コンサルティング、各種色彩講座の企業内講習会、講師派遣などを実施した。以下に、おもな実施事例をあげる。

- a) 変退色用及び汚染用グレースケールの製作
- b) 各種色見本の受注製作
- c) 光源の演色性に関する調査
- d) 安全色彩に関する調査
- e) 社会人教育のための色彩教育カリキュラムの開発
- f) 製品色の選定に関する調査
- g) 製品色の動向予測に関する調査
- h) ユニバーサルデザインに関する調査
- i) 色彩意識調査
- j) 色彩の視認性に関する調査

(2) 色彩資料の開発と頒布事業

ブルーを対象とした定点観測データ、アンケート調査及び色名をまとめた資料を開発した。

(3) 講習会、色彩講座の開催

定期開催の色研セミナーとして、下記の専門講座を開催した。

色彩指導者養成講座(第35期)

色彩管理士認定講座(第7期)

色彩心理、カラーデザイン関連講座 2回

色彩工学・技術関連講座 4回

(4) 定期刊行物及び広報等の活動

機関誌「色彩研究」Vol.60 の企画を行った。

広報誌「COLOR」No.160 及び No.161 を発行した。

ホームページ <http://www.jcri.jp/> を維持・更新した。

メールマガジンを 2 回発行した。

(5) 学会及び論文発表

CIE シンポジウム 2013 (仏)、日本色彩学会、日本建築学会、照明学会での学会発表を行った。

(6) 会員 賛助会員 8 社、色彩研究購読会員 80 名

### 3. 資料 (研究報告概要)

#### (1) 白色光源の演色性評価方法の開発 (研究員: 小松原 仁)

蛍光灯とは異なった分光特性を持っている白色 LED 光源の演色性は、CIE 13.2 (JIS Z 8726) で規定された演色評価数と知覚される演色性と一致しないことが指摘されている。CIE-TC 1-69 では、白色 LED 光源を含めた新しい演色性評価方法の開発を進めている。

新しい演色性評価方法を開発するために白色 LED 光源及び蛍光灯の演色性を、両眼隔壁法を用いて観測した。また、演色性評価に用いる試験色について検討し、高彩度試験色を用いることによって白色 LED 光源及び蛍光灯などの試験光源の演色性の違いを峻別できることを明らかにした。

#### (2) Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発 (研究員: 小林 信治)

Hue-Tone システムとして普及している PCCS は、200 色程度までの色票集が利用されている。しかし、色彩設計の実務家からは色数が少ないという指摘を受けている。昨年度までに、色知覚モデルを用いて Tone の心理物理的特性を明らかにし、Tone を細分化して基準値を設定する客観的な設定方法を開発した。この方法を特許申請し、特許として受理された。

#### (3) 詳細版ヒュートーンシステムによる色彩計画ツールの制作 (研究員: 赤木 重文)

本年度は、詳細版ヒュートーンシステム NOCS (仮称) のツールとして、色票系ツールとデジタル系ツールの 2 種類について試作した。色票系では一覧カラーチャート、等色相断面チャート、カラーカード等について試作品を作成した。プリントによる作成のため基準値に対する再現精度について、検証を行いつつ進めている。また、デジタルツールとしては、解説用動画や一覧カラーチャートを試作した。デザイン支援ツールとしての運用を想定している。

#### (4) 社会人教育「デザイン視点によるプロダクトマネジメント」の運用に関する研究

##### (研究員: 赤木 重文)

本年度は、昨年度制作した 20 科目のカリキュラム原案を素材として、実用化に向けたカリキュラム修正について、以下のような様々な側面から検討を行った。

- (1) 調査による関連情報の収集
- (2) カリキュラム原案修正検討
- (3) 単位認定システムに関する検討
- (4) 開発カリキュラム運用に関する検討

これらの検討のうち、まず関連情報の収集から、各科目とも導入編が必要であるとの結論を得た。これを受けて3科目について導入編のテキストを制作し、2科目について実験的な講座を実施し、導入編の効果を講座後のアンケートにより確認した。さらに、2科目についてe-ラーニングの試作を制作し、関係者の視聴によりその効果について確認した。

また、既存検定の活用や最新情報取得講座について実験的な講座を実施し、講座後のアンケートによりその方向性を把握した。

#### **(5) CGによる製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究（研究員：江森 敏夫）**

平成22年度から取り組みを開始した「CGによる製品の外観の限度見本」は、一定の有効性は確認できているが、今年度はさらにいくつかの欠陥パターンについて、CGで段階的に変化させることでスケールを作成した。

さまざまな欠陥（不具合）の中から今年度は、化粧合板の①板目、②シワ、③ダク、プレス成形品の④ヒケ、⑤人工大理石のツブ、について検討を行い、CGによる画像作成とスケール化を試みた。

化粧合板の3種類については、最終的なスケール制作が完了し、制作現場においても運用可能ということで、本格的な運用を行っていく。ヒケについては、最終的なスケールの確認作業中である。人工大理石のツブは現在画像の調整中で、関係者との確認を行っている。画像調整が完了次第、スケール化を進める予定である。

#### **(6) 海外の色彩情報に関する調査分析（研究員：名取 和幸）**

タイの人々の色彩意識に関する調査を、現地機関FPDC（Fashion Product Development Center）と国内企業との共同調査の形で計画、実施した。調査項目には、流行や色彩への関心度、色彩好悪、製品別嗜好色、イメージを表す色などを設定し、該当色をカラーチャートの中から選択させて行った。会場はバンコクのオフィスビル及び大学構内で、有効回答者数は会社員304名及び大学生311名であった。合わせて、バンコク市内において各種製品、伝統的建物、開発地区などの現地視察も行った。これらの結果から、タイにおける色彩と色彩意識に関する傾向を明らかにすることができた。また、日本色彩学会全国大会において、様々な国（ロシア、シンガポール、スリランカ、中国、台湾）からの留学生を対象に、座談会「外国人から見た日本人の色彩感覚」を開催した。衣食住、自然、商品、生活習慣の色について、日本と自国との相違に関する事例の発表などから、各国と日本の色彩の特徴の一端を把握できた。

#### **(7) ファッションの動向に関する調査（研究員：赤木 啓子）**

日本ファッション協会が公開しているHP「スタイルアリーナ」の元となる調査データの一部を同協会から提供いただき、どのような分析が可能であるかの検討を行った。調査地

点である銀座・表参道・原宿・渋谷・代官山におけるアイテムごとの出現色については、コレスポンデンス分析等の分析を用いることで対象地区の特徴や位置づけを見出すことができた。一方、配色についてはメッシュ法による分析や使用色の面積を考慮し、それらを単純な幾何学形に落とし込むことで配色形式との関係を考察することの可能性が示唆された。ただ、ファッションスタイル全体の印象は、測色対象以外の色（例えばヘアカラーなど）の影響も大きく、これらも調査対象に加えた分析を行うことが、今後の課題として挙げられた。本件については、今後も引き続き検討を行う。

## Ⅱ. 処務の概要

### 1. 会議に関する事項

#### (1) 理事会

開催日時	議 題	議事結果
平成 25 年 5 月 29 日	第 1 回理事会（霞会館） 平成 24 年度事業報告及び収支決算 平成 24 年度監事監査報告	全員異議なく承認 全員異議なく承認
平成 25 年 7 月 11 日	第 2 回理事会（日本色彩研究所） 借入金借換	全員異議なく承認
平成 26 年 3 月 28 日	第 3 回理事会（日本色彩研究所） 平成 26 年度事業計画及び収支予算 評議員選任委員会委員の選任 評議員推薦候補の選任	全員異議なく承認 全員異議なく承認 全員異議なく承認

#### (2) 評議員会

開催日時	議 題	議事結果
平成 25 年 5 月 29 日	第 1 回評議員会（霞会館） 平成 24 年度事業報告及び収支決算 平成 24 年度監事監査報告 平成 25 年度事業計画及び収支予算	全員異議なく承認 全員異議なく承認 全員異議なく承認

### Ⅲ.理事、監事、評議員名簿

(平成26年3月31日 現在)

役員	氏名	就任年月日	所属役職名
理事長	近江源太郎	H24.11.30	一般財団法人日本色彩研究所 理事長
常務理事	赤木 重文	"	一般財団法人日本色彩研究所 常務理事
常務理事	小松原 仁	"	一般財団法人日本色彩研究所 常務理事
理事	小林 信治	"	一般財団法人日本色彩研究所 シニアリサーチャー
"	相馬 一郎	"	早稲田大学名誉教授
"	名取 和幸	"	一般財団法人日本色彩研究所 シニアリサーチャー
監事	金子 隆芳	"	筑波大学名誉教授
"	高城 敬一	"	高城敬一税理士事務所
評議員	入江 観	H23. 9. 1	女子美術大学名誉教授
"	岩本 康一	"	日本電色工業(株) 代表取締役社長
"	木本 希	"	(財)日本消費者協会 専務理事
"	久保田 亘	"	日本色研事業(株) 代表取締役社長
"	齋藤 美穂	"	早稲田大学人間科学学術院教授
"	佐藤 幸蔵	"	富士フイルム(株) R&D統括本部 フェロー
"	下泉 和也	"	D I C(株)
"	進士五十八	"	東京農業大学出版会 理事長
"	永倉 嘉行	"	常葉法律事務所 弁護士
"	的場 隆夫	"	関西ペイント(株) 技術企画管理部長
"	山元 廣治	"	コニカミノルタ(株) オプティクスカンパニー